



# 上中だより

～誠 実～

7月 第4号

令和2年7月16日

練馬区立上石神井中学校

校長 新村 紀昭

## 偏見や差別をもたない

金子みすゞ 詩二編

まず初めに、集中豪雨で熊本県を中心とする九州地方に甚大な被害が出ました。生徒、保護者の皆様の中にもご関係のある方がいらっしゃるかもしれません。新型コロナウイルス感染症への対応でたいへんなところに加えて、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げたいと思います。

さて今回は、金子みすゞさんの「わたしと小鳥と鈴と」を改めて紹介します。みなさんはたぶん小学校でこの詩について、国語や道徳の時間に学んだのではないかと思います。

### わたしと小鳥と鈴と

わたしが両手をひろげて、  
お空はちっとも飛べないが、  
飛べる小鳥はわたしのよう、  
地面（じべた）をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても、  
きれいな音は出ないけど、  
あの鳴る鈴はわたしのよう、  
たくさんな唄（うた）は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それからわたし、  
みんなちがって、みんないい。

「みんなちがって、みんないい。」本当は当たり前のことなのに、一つの基準で全ての価値を決めてしまおうとする現代において、この詩の言葉は私たちの心にやさしく、しかし鋭く響いてきます。「ものの価値や基準は一つではない。たとえ一つの基準で劣っていても、私の価値は決して失われることはない」という思いが伝わってくる詩です。

性格や性別、出身地、国籍、肌の色などは人それぞれ、同じ人間は一人としていないのに、私たちはともすると、一つの価値観や一面的な見方をしてしまいます。



第62回入学式

同じく金子みすゞさんの「大漁」という詩は、そうした一面的な見方や感じ方をしてしまう私たちに気付きを与え、思わず「ハッ」とさせられます。

### 大漁

朝焼け小焼だ、大漁だ  
大羽鰯（おおばいわし）の大漁だ。  
浜は祭りのようだけど、  
海のなかでは 何万の、  
鰯（いわし）のとむらいするだろう。

皆さんも新聞等で聞いたことがあると思いますが、5月末に、アメリカのミネソタ州でジョージ・フロイドさんという黒人男性が白人警官に首を圧迫されて死亡する事件が起きました。そして、この事件を契機に人種差別に対する抗議行動や警察改革、植民地時代の象徴への破壊が起き、世界中で人種差別をなくす運動が高まっています。日本にいると、こうした社会全体に広がる差別について感じることは少ないかもしれませんが、是非知っておいてほしいと思います。

また、長引く新型コロナウイルス感染症。練馬区では残念ながら感染者が増え続けています。皆さんは先日、私たちの生活を支えてくださっている方々へ感謝の手紙を書きましたが、世間では感染者への不当な差別や偏見がまだまだあるという話を聞き、大変残念に思います。「みんなちがって、みんないい」という、偏見や差別をしない当たり前のことをしっかり胸に刻みたいと思います。

朝礼講話一部改

## 第 62 回入学式

令和 2 年 6 月 19 日、学校再開から3週間後、臨時休業から2か月半が過ぎたこの日、第62回入学式を実施しました。ご来賓や在校生の参加は自粛し、新入生の呼名と代表生徒による歓迎の言葉、新入生の誓いの言葉を中心に、校歌は録音による紹介としました。感染症予防の視点から約50分間という短い式でしたが、新入生は緊張感をもって呼名に応え、中学生としての節目を迎えることができました。

### 誓いの言葉

新入生代表 1年A組 甲斐 悠樹

木々の緑が深まりつつあるこの季節に、私たちは上石神井中学校の新1年生として入学しました。6月に入り、学校が再開されて新しい制服に袖を通したことで、小学校気分も一新し、「中学生になったなあ」という実感が湧いてきました。

今までとは違った中学校生活には、不安な気持ちを抱く半面、どんなことが待っているのだろうという楽しみな気持ちもたくさんあります。また、校長先生をはじめ、先輩から励ましの言葉をいただき、1日も早く学校に慣れ、中学生として毎日を頑張りたいと思います。

中学校は色々な面で小学校とは違います。学習面では、教えていただく先生が教科ごとに替わりますし、英語の授業も本格的に始まり、勉強も難しくなります。楽しみでもあり、不安でもありますが、毎日こつこつと学習に取り組みたいです。また、小学校には無かった部活動が始まります。私たちは、中学校での部活動をとても楽しみにしています。私たちが6年生の時に活動の見学があり、一人ひとりが運動部や文化部、いろいろな部活動に興味をもちました。やってみたいことが数多くありますが、先生方や先輩方に色々教えていただきながら、一歩ずつ頑張っていきたいと思います。

それから、新しい友達に出会えることも楽しみの一つです。新しいクラスでは、今まで仲の良かった友達と離れることもあります。他の小学校の人たちとも一緒になります。私たちは、時には相手の立場に立って物事を考えられる心の広さを身に付け、良き仲間として理解し合い、お互いに思いやりをもった生活を送れるようにしていきたいと思います。

今、新型コロナウイルスの影響は、少しずつ収まってきていますが、感染力の高い恐ろしいウイルスですので、いつになれば今までの生活に戻れるのか分かりません。また、今からの中学校生活で、時には苦しいことや迷うことがあるかもしれません。でも、私たちは強い心で乗り切り、何事にも積極的に努力していきたいと思います。

最後になりましたが、これからお世話になる先生方、先輩方、私たち新入生を温かい目で見守り、ご指導くださいますよう、よろしく願いいたします。

### 歓迎の言葉

在校生代表 3年B組 石田 綾乃

1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。この2週間の学校生活はどうでしたか。新型コロナウイルスの影響により、2カ月遅れの入学式となってしまいました。私たち在校生は、みなさんの入学を心待ちにしていました。こうして今日というよき日を迎えられたことを嬉しく思います。

今、こうしてみなさんの姿を見ていると、2年前の私たちを思い出します。私たちも新しい標準服を身にまとい、中学校生活への期待と不安を胸に、入学式を迎えていました。皆さんもきっと同じ気持ちだと思います。中学校の授業では、各教科で先生が変わり、授業内がより詳しく、難しくなります。不安を抱えている人もいますが、安心してください。上石神井中学校の先生方は、優しく丁寧に教えてくださるのでしっかり勉強することができます。また、上石神井中学校には、運動部・文化部合わせて十六の部活動





があります。どの部活動の先輩も、新しく入部する皆さんを心待ちにしています。部活動では、技術だけでなく、仲間の大切さや礼儀など、さまざまなことを学ぶことができます。先輩も優しく接してくれるので、互いを高め合い、協力しながら三年間頑張ってください。きっと大きな達成感をえることができるでしょう。

さて、上石神井中学校には、たくさんの行事があります。中でも、運動会と文化発表会は二大行事と言われ、大いに盛り上がります。運動会では兄弟クラスごとに色別に分かれて競い合い、応援合戦も行われます。素晴らしい応援をした団に与えられる燃塊賞という特別な賞があり、その賞を取るために、三年生を中心に各団全員で団結します。

文化発表会の合唱コンクールの部では、どのクラスも一丸となって、練習に励みます。本番、練馬文化センター大ホールにおいて、全力で歌ったあとの達成感は何とも言えないものがあり、クラスの絆がより深まります。一年生の皆さん、私たちと一緒に最高の学校生活をつくりあげていきましょう。

皆さんが上石神井中学校を卒業するまでの三年間には、嬉しいことや楽しいこと、時には苦しいことも経験することでしょう。困ったり、悩んだりした時には、友達や先輩に相談してください。みんなで協力して、共に成長していきましょう。そして、一日一日を大切に、自分の目標に向かって全力で取り組み、ずっと忘れることのない思い出を一緒につくっていきましょう。



式前の学活風景



入場の様子



新入生呼名



学年教員の紹介



校歌紹介



新入生退場

## 苦手なことがある自分も好きになってほしい

上石神井中学校 マイステップアップルームより

みなさんの中に、「私には苦手なことなんて一つもない!私は完ぺきな人間だ!」と自信をもって言える人はいますか?たぶんいないと思います。運動が苦手、数学が苦手、書くのが苦手、読むのが苦手、人の前で発表するのが苦手、空気を読むのが苦手、計画を立てて行動するのが苦手などなど、人それぞれいろいろな苦手なことがあるのではないのでしょうか。

この学校にある“マイステップアップルーム”という教室では、皆さんが苦手なこととうまく付き合っていくためのサポートをしています。例えば苦手なことがあって困っている人と、一緒に解決策を考えたり、苦手なこととうまく付き合うための練習をしたりしています。

また、授業中の皆さんの様子を見ながら、より多くの人にとって、分かりやすく参加しやすい授業にするためにはどうすればよいのかを考えて、授業をしている先生と話したりします。

マイステップアップルームの先生たちは、「この学校に通うすべての人が楽しい学校生活を送れるようになってほしい」と考えています。勉強や友だち関係など、悩んでいることがあったら、気軽に相談してください。私たちに直接相談できない時には、まず担任の先生や学年の先生などに相談してみてください。



「苦手とうまく付き合う」授業

## 学校に通うということ

中学生にとって、学校に通うことがどうして大切なのか。様々な理由で学校に登校できていない友だちに対して、思いをつづった生徒がいますので、ここに紹介します。

### ～学校に行くことの必要性とは～

第2学年 女子生徒

誰もが一度は思ったように、皆さんは「なぜ学校へ行かなくてはいけないのか」という疑問をもったことがないでしょうか。このような疑問をもった時、皆さんは誰にこのことを聞きますか。学校の先生や親や友だち。しかし、本当の理由を知っている人は少ないでしょう。唯一帰ってくるのは「学校へ行かせるのは親の義務だから」という言葉です。でも、これは答えになりません。これは親の義務の話であって、子どもが学校に行かなければならない理由にはならないからです。

では、なぜ子どもは学校に行かなければならないのでしょうか。私は、それは簡単に言えば義務ではなく、権利だからだと思います。例えば、選挙はどうでしょうか。18歳以上の方が投票できるのは義務ではなく権利だからです。それと同じように、7歳からは学校に行く権利があります。では、学校に行くメリットは何かという点について考えてみます。まず、学校に行くことで未来が増えます。進むことができる職業が増えるからです。みんな、一つは将来の夢があるでしょう。学校に通うことで、その夢に一步近づくことができるのです。次に、学校では社会性や社交性が学べるということです。学校へ行かずに大人になると、人との付き合い方や社会のルールやマナーが身に付きません。そうなるとこの先も大変だと思います。しかし、学校は共同生活なので社会性などが身に付きます。さらに、みんなで過ごしていくため、時間を守る力も身に付きます。時間が守れなければ、せつかくいる友だちも離れていってしまうかもしれません。

ここまでメリットだけを紹介しましたが、デメリットはないのかという意見もあるでしょう。確かに、学校もいいところだけではありません。デメリットでやはり一番多いのは、人間関係、いじめの問題があります。自分は何もしていないのにいじめられてしまう。そんな人が世の中にはたくさんいます。どんなに頑張ってもこの世界からいじめをなくすことはできないと思います。では、どうすればいいのか。それは、その人自身が勇気をもって、身近な人に相談するということです。たとえ聞く耳をもってくれる人が身近にいないても、電話や葉書で相談を受けてくれるところがあります。いじめをなくすことはできませんが、相談すれば少しでも軽くすることができるでしょう。「ちゃんと聞いてくれる人は、どこかに必ずいます。」

このように、学校に行くことは義務ではなく権利です。学校では社会性や社交性を学ぶことができ、職業も増えます。もし、嫌なことがあれば、身近な人に相談してみてください。少しは楽になれると思います。私は学校に行けというつもりはなく、学校に行ける権利を大事にしてほしいと思っています。皆さんの未来が少しでも明るいものになるように願っています。